

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	音楽 I	2	1年	芸術音楽 I 選択者

使用教科書	副教材等
『高校生の音楽①』教育芸術社	Violin ひとつひとつ丁寧に理解できるヴァイオリン教本

1 科目の目標

音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

(2) 個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。

(3) 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

2 評価の観点とその趣旨

①	知識・技能	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めている。 創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。
②	思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて独自の表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。
③	主体的に学習に取り組む態度	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

3 評価方法

ア 取組みの観察 ウ ワークシート等への記述内容	イ 演奏、作品の内容 エ 提出物の内容	アからエを観点別に見取ったものを総合して評価する。
-----------------------------	------------------------	---------------------------

4 学習計画

学期	月	題材名	領域	項目	使用教材項目	題材の学習目標	評価の観点 (特に重視するものに①)		
							①	②	③
1学期	4	発声・合唱	表現	歌唱	校歌	・バランスのよい姿勢、呼吸の仕方、声の響かせ方を理解している ・曲のイメージをもち、曲想と歌詞との関わりや旋律の特徴、言葉の抑揚を理解して、表現を創意工夫して歌う	○	○	○
	5	音楽表現・オーケストラ表現の効果	鑑賞		魔法使いの弟子	・作品に影響を与えたゲーテの詩『魔法使いの弟子』を読み、情景を思い浮かべながら曲を鑑賞している ・登場する人や物、物語のシーンがどのように音楽で表現されているかについて、考察する		○	○
	6	リコーダー	表現	器楽	木星	・管楽器のしくみを理解している ・曲想とリコーダーの音色や奏法との関わりを理解している ・曲にふさわしい奏法、身体を使い方などの技能を身に付け、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫する	○		○
	7	音楽理論	楽典		音名と大譜表	・高さとの表記の仕方について理解している ・音名の様々な呼び方を理解している ・新出事項について、どの場面でその呼ばれ方が使われているのか、呼び分けるのか適切に理解している	○		○
2学期	9	ヴァイオリン	表現	器楽	カノン きらきら星	・弦楽器のしくみについて理解している ・弦楽器表現に必要な奏法技能を身につけている ・既習事項を用い、曲想に合った表現について考えることができる ・表現技法が曲にもたらす効果について理解し、演奏している	○		○
	10	創作表現	表現	創作	《きらきら星》の旋律で音楽をつくろう	・変奏や編曲について理解している ・裝飾音について理解している ・《きらきら星》の旋律を創意工夫して編曲し、創作に親しむ ・イメージをもって《きらきら星》の旋律を変奏する	○		○
	11	ギター	表現	器楽	Happybirthday	・撥弦楽器のしくみについて理解している ・曲にふさわしい奏法、身体を使い方などに留意して演奏し、表現に必要な技能を身に付ける ・曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解する		○	○
	12	ベートーヴェンの「スケッチ」を追う	鑑賞		交響曲第9番第4楽章	・ベートーヴェンの交響曲第9番第4楽章の曲の構成やシラーによる歌詞の内容を理解している ・音楽に込められた作曲者の思いについて話し合い、考えを深める		○	○
		合唱	表現	歌唱		・ドイツ語の発音ができる ・曲のイメージをもって、イメージに合った表現ができている ・曲想と歌詞との関わりや旋律の特徴、言葉の抑揚を理解して、表現を創意工夫して歌うことができる	○	○	○
3学期	1	箏	表現	器楽	六段の調 初段	・箏のしくみや流派の違いについて理解している ・絃譜の読み方や箏の構造、奏法について理解している ・旋律の動きや余韻の変化、間などを理解し、箏の特徴を生かして演奏できている	○		○
	2	日本の音楽・芸能	鑑賞		京鹿子娘道成寺	・歌舞伎を鑑賞したり調べたりしながら、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりを理解する ・西洋音楽との違いを考察できる		○	○

教科	科目	単位数	学年次	集団
芸術	書道 I	2	1年	11・12・13・14HR

使用教科書	副教材等
書道 I（東京書籍）	なし

科目の目標
<p>書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	・書の表現の方法や形式、多様性などについて理解している。 ・書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け付け、表している。
② 思考・判断・表現	・書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	・主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

評価方法
<p>ア 授業に取り組む姿勢 イ 作品 ウ ワークシート等の記入内容</p> <p>エ 提出物の内容 などをもとに総合的に評価する。</p>

学習計画						
月	【単元名】	【使用教科書項目】	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	書道入門	書写から書道へ 用具用材・姿勢と執筆法 漢字の成立と変遷	<p>中学校国語科書写からの接続、書道の学習の仕方を理解する。</p> <p>用具用材の取り扱い方、姿勢と執筆法を理解する。</p> <p>五書体の成立と変遷、特徴を理解する。</p>	○ ○		○
5	漢字の書(篆刻)	篆刻と落款 落款を刻す	<p>篆書・篆刻について理解している。</p> <p>立体表現における表現効果や用具・用材との関わりを理解している。</p>	○	○	○
6 7	漢字の書(楷書)	<p>古典臨書 「九成宮醴泉銘」 「孔子廟堂碑」 「自書告身」 「牛橛造像記」</p> <p>創作 古典を生かそう 鑑賞</p>	<p>古典の書体や書風に即した用筆・運筆ができる。</p> <p>古典の美を感じ、楷書の用筆法(直筆・側筆・露鋒・藏鋒)、構成法(背勢・向勢・円筆・方筆)を理解している。</p> <p>古典の線質、字形や構成を生かした表現をすることができる。</p> <p>書を構成する要素や表現効果、風趣を感じ取り、言葉で表現することができる。</p>	○ ○		○ ○
9 10	漢字の書(行書)	<p>行書の特長 古典臨書 「蘭亭序」 「風信帖」</p> <p>創作 古典を生かそう 鑑賞</p>	<p>行書の特徴、楷書との違いを理解している。</p> <p>行書の基本的な用筆・運筆ができる。</p> <p>古典の書体や書風に即した用筆・運筆ができる。</p> <p>表現効果(墨の潤渾・文字の大小・線の肥瘦・紙面構成・気脈の貫通)を意識して、作品を制作することができる。</p> <p>書を構成する要素や表現効果、風趣を感じ取り、言葉で表現することができる。</p>	○ ○		○ ○
11 12	仮名の書	<p>仮名の成立 仮名を書く準備 単体・変体仮名・連綿 古筆の臨書 「高野切第三種」</p> <p>鑑賞</p>	<p>仮名の成立について理解している。</p> <p>仮名の基本的な用筆・運筆法を身につけている。</p> <p>線質や字形を生かした表現の技能を身につけている。</p> <p>古筆の美しさを感じ取り、仮名の基本的な用筆・運筆の技能を身に付けている。</p> <p>意図に基づいた表現法を構想し、効果的な表現の技能を身につけている。</p> <p>書を構成する要素や表現効果、風趣を感じ取り、言葉で表現することができる。</p>	○		○ ○
1 2	漢字仮名交じりの書	<p>漢字仮名交じりの書の変遷 古典を生かした表現 線による表現の広がり 用具用材による表現 紙面構成</p>	<p>漢字仮名交じりの書の成立について理解している。</p> <p>用筆・運筆法と表現との関わりを理解し、効果的に表現することができる。</p> <p>漢字と仮名の調和した字形、大きさ、線質、全体の構成について構想し工夫している。</p> <p>効果的な全体の構成を構想し工夫することができる。</p> <p>漢字仮名交じりの書の名筆のよさや美しさを感じ取り、作品の価値や生活における効用について考え、味わって捉えることができる。</p> <p>自らの意図に基づいて、字形、用筆、全体の構成を工夫した作品を創作することができる。</p>	○	○	○

		創作 鑑賞	言葉と書を調和させよう	書を構成する要素や表現効果、風趣を感じ取り、言葉で表現することができる。		○	○	○
--	--	----------	-------------	--------------------------------------	--	---	---	---

教科	科目	単位数	学年次	集団
芸術	美術 I	2	1	

使用教科書	副教材等
「高校生の美術 1」（日本文教出版）	なし

科目の目標
<p>美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、完成を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨		
① 知識・技能	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表している。	
② 思考・判断・表現	・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	
③ 主体的に学習に取り組む態度	・美術文化と主体的に関わり美術の幅広い表現及び鑑賞の活動に取り組もうとしている。	
評価方法		
ア 授業への取り組み等の行動観察 ウ ワークシート等への記述内容	イ 制作作品、アイデアスケッチ エ 提出物の内容	アからエを観点別に見取ったものを総合して評価する。

学習計画							
月	【題目】	領域	項目	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
					①	②	③
4	ガイダンス						
4	彫刻	表現	彫刻	・指定されたテーマをもとにして、主体的に主題を生成できる。 ・形態や量感、質感を意識して創造的な表現の構想を練ることができる。 ・材料や用具の特性を作品に生かすことができる。	○		
5		鑑賞		・自分の作品について、自分の言葉で考えまとめることができる。 ・表現の意図や工夫、作者の思いを感じ取ることができる。		○	○
6	漫画表現	鑑賞		・美術の歴史や表現の特質について、主体的に感じ取り、深く考えることができる。			
7		表現	絵画	・記号や線の持つ視覚的效果を理解できる。 ・感情や感覚を表現する形について、創造的に構想を練ることができる。	○	○	○
9	演習	表現	絵画	・描画材料を生かして描写することができる。	○		○
	美術史	鑑賞		・日本やアジア、西洋の美術の魅力を探り、美術の働きや社会との関わり方について主体的に考えることができる。		○	○
10	装飾デザイン	表現	デザイン	・表現に関心を持ち、その表現方法や構図の工夫などを学ぶ。 ・感じたことや考えたことを話し合い、他者の考えに関心を持ち、作品のイメージや表現方法を練ることができる。	○		
11		鑑賞		・形や色彩の効果などに着目し、考えまとめることができる。 ・表現の工夫を感じ取り、作者の表現の意図や主張について考える鑑賞活動に取り組むことができる。		○	○
12							
1	油絵具演習	表現	絵画	・主題を効果的に表現するための構想を練ることができる。 ・材料や道具の特性を生かして表現を追求できる。	○		
2		鑑賞		・自分の作品について、自分の言葉で考えまとめることができる。 ・表現の意図や工夫、作者の思いを感じ取ることができる。		○	○